

MAT PRESS

隔月発行

Vol.3

Meiji University of Integrative Medicine | Medical Athletic Trainer Press



2019年度に新しく立ち上がったメディカルアスレチックトレーナー育成プログラム(MAT)。緊急事態宣言の全面解除を受け、対面授業が順次再開され3期目のプログラムが本格的にスタートしました。ここでは、同プログラムで行われている授業や実習、学内外の様々な取り組みについて紹介します。

緊急事態宣言の全面解除を受け 2021年シーズンが本格始動

アスリートサポートセンターでの活動に加え、後期から本格的に各学年のMATの授業がスタートしました。



授業の様子

授業のスタートにあたり、1年生には、実際に先輩がどのようなトレーナー活動を行っているのかを知ってもらうためにインタビューを行いまとめることで、コミュニケーション力の向上はもちろん、自らの今後の活動、計画に活かす取り組みを行っています。

MATでは、2019年3月1日に創設され、以後、大学スポーツの振興と参画人口拡大に向けて活動しているUNIVAS(一般社団法人 大学スポーツ協会)が推奨する選手のコンディショニングサポート管理システム「ONE TAP SPORTS」を今年度から導

入。女子サッカー部や陸上競技部などの選手に日々データを入力してもらうことで、選手の体調・コンディションを可視化。選手本人はもちろんのこと、スタッフおよびMATの学生が各クラブの選手の状態を把握することで、コンディションアップ、ケガの予防、もしケガなどをした場合の素早い治療、効果的なサポートに役立っています。



MATの学生からも「フィジカルテストの結果や各種測定結果などとあわせて選手が日頃どう過ごしているか(睡眠、栄養、その他)が把握でき、ケガや故障をした要因などを客観的なデータに基づき知ることができる」などの声が聞かれるほか、「疲労度などがデータで分かるので、自分の感覚とすり合わせることができる」と、選手自身も自らの体調を知ることで、コンディションの維持・強化、大切

な試合に向けた調整などに活用されています。

MAT生にとっては、データ分析力の強化、それに基づき選手にフィードバックできるなどのメリットがあり、選手もなぜケガをしてしまったのかの要因を知ることで、次への対策を練る材料となるなど、強化クラブを有する医療系大学だからこそのプラスαの部分を活かした取り組みとなっています。



ONE TAP SPORTSを活用し選手と活発なコミュニケーションを行うMAT生

学外研修

柔道の兵庫県インターハイ神戸地区予選会に 医療サポート員として参加

▶新井陽豊(鍼灸学科4年)

「鍼灸学科の授業では、急性外傷や応急処置に関することを学べる機会はほとんどありません。応急処置の知識や技術、競技特性を知ることができる貴重な体験になりました」

▶石川悠乃(鍼灸学科3年)

「初めて柔道の大会に救護実習として参加。鍼灸学部では経験することのできない急性外傷の処置などを学ぶいい機会となりました。将来はスポーツ現場で活動したいと思っているので、実習経験を活かし、これからもっと勉強していきたいと思いました」

▶村本大河(鍼灸学科2年)

「限られた時間で試合中の切創や爪割れに素早く対応されたり、次の試合に向けて負傷した選手とコミュニケーションをとりながら素早く処置を行う先生方の姿がとても勉強になりました」



新人紹介

新しくMAT生となった1年生に目指したきっかけ、将来の目標などについて伺いました。



Q1 MATに入った理由

田路空奏さん (柔道整復学科1年)

生野高校出身(兵庫県) / 中・高校時代の部活動歴 バレーボール部

Q1 学科の授業以外に1年生からトレーナーに関することが学べ、学内外の実習などで、たくさんのことが経験できると思ったからです。実際、夏休みから授業が始まりましたが、先生はもちろん先輩方からも経験談を含めいろいろ教えていただけ、とても参考になりました。

Q2 患者さんにしっかり寄り添うことのできる医療人になりたいと考えています。そのために、常に学び続ける意欲を忘れず、技術はもちろんコミュニケーション力を付けていければと思います。

Q3 地元で地域の人々の健康を支えと共に小学校から高校までの部活動(スポーツ)現場に関わる活動ができればと思っています。小さい頃から正しい姿勢、動きを学ぶことで競技力の向上はもちろん、生涯に渡って健康を意識しながら生活できると思います。

Q2 MATの活動を通じてどう成長したいか

藤原沙妃さん (柔道整復学科1年)

生野高校出身(兵庫県) / 中・高校時代の部活動歴 ソフトテニス部

Q1 MATのパンフレットを見て、学生ながら知識を学ぶだけでなく、スポーツ現場でいろいろな経験が積めると思ったのがきっかけです。オープンキャンパスなどに参加し、学生と教員の距離が近く学びやすいと感じたことが決め手になりました。

Q2 トレーナーの役割について高校時代以上に知ることができ、イメージや考え方が少し変わりました。MATの活動を通じ、トレーナーとしての知識や技術はもちろんコミュニケーションスキルを磨き、信頼される人材として成長したいです。

Q3 正しい身体の使い方を指導できるトレーナーになることが目標です。ゆくゆくはクラブチームなど第一線で活躍する選手・チームのサポートに関わっていければと思います。

Q3 将来の目標

鮎川若奈さん (柔道整復学科1年)

園田学園高校出身(兵庫県) / 中・高校時代の部活動歴 テニス部

Q1 パンフレットを見て、学生のうちから、それも1年生からトレーナーとしての経験を積める点が魅力でした。

Q2 高校時代まではまだ漠然としていたトレーナー像が、先生や先輩方から詳しく教えていただくことで、徐々に明確になり、今後自分が取り組んでいくべきことが少しずつ分かってきました。今後は知識を深め経験を積むことに加え、思考の幅を広げていければと思います。

Q3 メンタル、動きづくり、体力強化などを含め、アマチュア、プロを問わずスポーツに打ち込む人たちの力になれる存在になれると思っています。

井上武真志さん (柔道整復学科1年)

福岡工業大学附属城東高校出身(福岡県) / 中・高校時代の部活動歴 野球部

Q1 オープンキャンパスでアスレチックトレーナー部の話を聞き興味を持ったのがきっかけです。

Q2 まだ始まったばかりですが、選手から信頼されるトレーナーになるためには知識や技術と共にコミュニケーション力と観察力の大切さを強く感じています。今後の活動を通じて、先生や先輩方のように、そうした力をしっかり磨いていきたいと考えています。

Q3 小学生から高校、一般選手まで、その世代にマッチしたスポーツの楽しさ、動きづくり、身体強化を指導できるトレーナーになることが目標です。

OB・OG紹介

現在は治療院などで活動するアスレチックトレーナー部出身の卒業生に、入学のきっかけ、本学の思い出、印象に残っている授業、今後の目標などについて伺いました。



星野楓さん 株式会社SYNERGY JAPAN 柔道整復師 (明治東洋医学院専門学校鍼灸学科在学中) 明治国際医療大学 保健医療学部柔道整復学科 2021年3月卒業 ※在学中はアスレチックトレーナー部に所属(県高校(三重県)出身) 高校時代の所属部活動:陸上競技部

—医療系を目指したきっかけは?

星野:陸上競技をする中で怪我をし、整形外科にお世話になったことがきっかけです。その時、テーピングや鍼に興味を持ち、医療系の道に進みたいと思い目指しました。

—明治国際医療大学を選んだ理由は?

星野:文武両道で取り組める環境が揃っており、またオープンキャンパスに参加した際、先生方や在校生の方々がとても丁寧に対応してくださり、気になる点も納得がいくまで説明してくださったことが決め手となりました。

—学生時代、印象に残っている授業・実習は?

星野:運動機能解剖学実習です。症状に着目するだけでなく、普段の歩き方、座っている姿勢など何気ない行動に対して意識を向けることで症状の改善だけでなく、再発防止にも繋がることを学び、実際にその大切さを自分の身体でも実感することができました。

—アスレチックトレーナー部の活動で思い出に残っていることは?

星野:京都府中学校駅伝のサポートです。自分が駅伝前日にケアをした選手が駅伝で活躍する姿を間近で見ることができ、レース後にお礼を言いに来てくれたことがとても印象に残っています。

—学生時代の経験で現在の仕事に役立っていること、また、役立ってあろうものは?

星野:学生支援センターでのアルバイトです。センターでのアル

バイトを通じ、自分が理解したものを誰かにわかりやすく伝えることの難しさを経験することができました。その経験を活かし、現在は、治療院で患者さんに今の状態を理解していただけるように、わかりやすい言葉を選ぶように心がけています。

—明治国際医療大学の良さは?

星野:先生と学生の距離が近く、悩んでいるとすぐに手を差し伸べてくださいます。また一人ひとりの性格を知った上で、勉強の方法や就職先の提案もしてくださいます。

—今後の目標は?

星野:ジュニアからシニアまで幅広い世代のアスリートが、怪我や疾患で目標を諦めることなく、スポーツを全力で楽しめるようにサポートできるトレーナーを目指しています。最終的には、アスリート自身が自分の身体に興味を持ち、怪我や疾患を未然に予防できるように導けるトレーナーになりたいと思っています。今は女性アスリート特有の婦人科系疾患にも対応できる治療家を目指し、専門学校で鍼灸を勉強しています。

—医療系を目指す高校生にメッセージをお願いします

星野:医療系の資格は患者さんの笑顔の間近で見ることができるとも魅力のある職業だと思います。受験勉強は大変だと思いますが、今の頑張りや、理想の治療家像に繋がる一歩目だと思うので頑張ってください。応援しております。

 明治国際医療大学

<https://www.meiji-u.ac.jp>



明治国際医療大学が独自に新設した資格"MAT"で活動する学生トレーナー公式アカウント



鍼灸学部
鍼灸学科

目指す資格

国家資格
はり師 きゅう師

保健医療学部
柔道整復学科

目指す資格

国家資格
柔道整復師

救急救命学科

目指す資格

国家資格
救急救命士

看護学部
看護学科

目指す資格

国家資格
看護師 保健師 助産師